

第2回品川区文化芸術・スポーツ振興ビジョン策定委員会 議事概要

日時：平成21年6月8日 14:00～16:00

場所：品川区役所第2庁舎252・253会議室

議事次第

1 開会

2 委員長挨拶

- ・ 魅力あるまちづくりにあたり、文化・スポーツとも社会発展のための生産要素、インフラという観点を意識しながらビジョンを作っていきたい。

3 文化芸術・スポーツ活動の現状について（資料に基づき事務局より説明）

委員

- ・ 品川健康センターでもスポーツ事業を行っているが、この資料には盛り込まれているか。

事務局

- ・ 健康センターは資料に入れていない。健康センターは、健康づくりの観点から事業を行っている。指定管理者の運営により、様々な事業を行っている。

4 区民意識調査結果について（資料に基づき事務局より説明）

委員

- ・ 性別で回答を分けなかった理由を教えてください。

事務局

- ・ ビジョンとしての将来像について議論するのが、この策定委員会の場である。その基礎資料として、全体の傾向を示すように質問を設定した。性別による傾向は、今後の施策展開では必要かもしれないが、今回のビジョン策定にあたって必要性はないと考えた。

委員長

- ・ 性別、年齢、地区、設問等のクロス集計は、現状を把握する上には必要だが、今回は全体の単純集計のみを示してもらった。この後の意見交換を踏まえ、さらに深く分析をしていくところで、クロス集計や設問間の相関を今後考えてもよい。

委員

- ・区政モニターを加えた理由と区政モニターの年齢について教えていただきたい。

事務局

- ・区政モニターは、区の施策や施設に一定の知識もあり、そういった方の意見をいただきたかったので調査を行った。
- ・区政モニターの方が年齢層は高い。定年退職後などにモニターとして公の活動に携っている方が多く、年齢は高めとになっている。区政モニターの回収率は高い。

委員

- ・機会とか施設が足りない、活動の場所が少ないなどで困難を感じているという結果が出ている。これらの具体的な内容は分かるか。

事務局

- ・今回の設問では設問ごとの「自由意見」という形では取っていない。最後に自由にコメント等を書く欄があり、その中に個別の意見をいただいている。

委員

- ・今回の有効回収率（25.35%）は高いのか低いのか。区では、どの程度の回収率を予測していたか。

事務局

- ・一般的にこの種の調査では大体 25% ぐらいである。非常に高い数字とは認識していないが、標本数 500 は取れているので、統計的な有意性は十分に得られていると考えている。

委員

- ・今後、例えば、生涯学習活動等の参加者、スポーツ活動の既存の実践者に対し、アンケート的なものを取る可能性はあるか。あまり活動に参加していない方にとっては、困っている問題（という設問）は身近ではないところもあると思う。

事務局

- ・この後、グループインタビュー形式で、文化・生涯学習、スポーツ、それぞれの団体の方を対象に懇話会を実施し、そこで意見をいただく予定。懇話会に参加できない方には「団体アンケート」を5月末までに実施（現在集計中）。このように区民意識調査、そして、実際に活動している方々の意見と、多角的に意見を伺いたいと思っている。次回、第3回の委員会で、その内容を報告する予定。

委員長

- ・3ページに「文化芸術に関心がありますか」という質問があり、4ページに「その関心がある領域を3つまで」とある。後者については全員回答か。それとも「関心がある」と答えた人だけが回答したのか。
- ・選択肢の数について、文化は「3つまで」、スポーツは「幾つでも」とした理由は、

事務局

- ・特に関心があった方だけでなく、全員からご意見を伺っている。

- ・選択肢の数で文化とスポーツで違いがあるが、特に意味を持たせたものではない。

委員

- ・今回の対象者は、「区民」だが、区内のスポーツクラブでは区外の利用者も多い。区外の方の意識を知る必要もあると思うが、今後、調査の可能性はあるか。

事務局

- ・今回は、住民基本台帳を基にした無作為抽出なので、回答者は「区民」である。団体アンケート（の対象団体）には、区外の人が代表者になっているケースもあるので、その中で区外の方の意見も伺っていきたい。また、懇話会（グループインタビュー）の参加者には区内の企業の方もいる。「昼間区民」がどんな活動をしているのかなど、住民とは別の視点で意見をいただく予定。

委員長

- ・今後、議論の中で区政モニターと無作為抽出のデータを検証する必要がある時は、分けて比較した方がよい。
- ・基本台帳の無作為抽出方法は、統計的には重要なやり方である。（回収数）507で（回収率）25.35%という数字は、一般的に、住民意識調査としては妥当な数字と言ってよい。
- ・回答しなかった75%の人と、回答した25%の意識は、おそらく有意に違うと思う。
- ・ここで出てきた数字は高めに出ている可能性があることは考慮したほうがよい。
- ・前回の区長の諮問にもあった「にぎわい」との関係で議論していくという点から、昼間人口（品川区で働いている、通学している人たち等）のことも、政策として念頭に置く必要がある。そうした人達を調査するのは技術的に難しいが、議論の中ではきちんと含めていくようにしたい。

5 意見交換

委員長

- ・今回の調査結果および、区の（文化芸術スポーツ活動の）現状の資料および説明を受けて、委員それぞれの立場から、区の現状や区民の意識についての意見や感想をいただきたい。

委員

- ・一つのパラメーターとして「人口の流出入」がある。居住年数の長さも、文化芸術やし品川の発展を考える観点から必要なポイント。たとえば、新しく来た人の品川への好感度や定着性が文化等にどうつながっていくか。
- ・情報の入手について、いろいろなコメントがあったが、活動している人、意識の高い人については、「情報を発信して、みんなに知らせたい」というところがあるのではないかと。アピールしたい、知ってほしいというところから、文化芸術やスポーツを広めていく下地を作っていくことは、重要なパラメーターである。
- ・文化芸術は、「鑑賞型」か「行動型」か。スポーツも、「する」「見る」「支える」という

要素があった。この中で、やはり「広げていく」「自分が進んでやる」「支える」というところをもっと強めていく、高めていくことに、今回のビジョンの作り方、考え方があるのではないか。この委員会は、「行動型」をいかに高め、発信していくかを考えていく場、議論させていく場にしたい。

委員

- ・全く同感である。まさに文化・スポーツ・芸術は受け身ではなくて、これから、我々が主体となってやっていく。「する」ことが中心になってこの委員会は進めていかなければいけない。今回の調査結果で、どうしても気になったのは、「映画・ビデオの鑑賞」(自分の文化芸術活動の内容として上位になっている)について、文化的色彩以上に「娯楽性」が強いので、設問としてなじまない気がする。

委員長

- ・確かに、回答の一番上が「映画・ビデオの観賞」であり、上位に並んでいる回答は全て「鑑賞型の行動」である。区民公募委員の文化またはスポーツの立場で参加している方々は、ご自身の活動と比べて区の現状をどのように感じるか。

委員

- ・「鑑賞」といっても、「歌舞伎やオペラを生舞台で観る鑑賞」と「テレビで見る鑑賞」とでは受けとめ方や感動が違うかと思う。本当は参加したいし、生で良い文化や芸術を観たいとの思いがありながら、実際は、たまに楽しむ程度か、なかなか参加や活動ができないのが、私も含め、区民の実態だろうと思う。どうしても自分個人の生活、仕事、余暇活動などが先あって、お金の面からも、文化芸術やスポーツが、ライフスタイルの中でまだまだ隅に追いやられている、というのが率直な感想である。
- ・この委員会では“仕方ない”となっちはいけないので、どうしたら参加型にできるか、生の文化に触れる機会を増やしたり、という方向で、皆さんのご意見もお聞きしたい。

委員

- ・私の知人で、90歳を超えるお母さんの介護をしている人がいる。仕事を早期に退職して在宅介護を24時間つきっきりでしており、書道や華道、庭で育てたりしたいと思うが、気持ちがいっぱいいっぱいなかなか出来ないという話もよく聴く。友人でも、小・中学生の時はバスケットボールをやって強かったが、就職すると仕事が忙しくて、スポーツからも遠ざかってしまう、という話をよく聞く。
- ・本当は、スポーツや文化は、余った時間を活用するよりも、そのための時間をどう作れるのかということに大切さがある。配布資料(文化芸術スポーツ活動の現状について)の中に「活動の紹介」があったが、「参加したいけど、できない」という現状に触れられていない。そうした側面をどう見て、分析するのが大切である。
- ・自分の健康、趣味も大事だが、生活を豊かにしていく、社会性を目指していくといった視点も大切である。文化・芸術、スポーツについて考えるためにも、毎日の生活の安定や、争いのない平和な暮らしもとても重要である。

- ・紹介のあったお祭りについても、中心的にやっているのは商店街や中小企業の方である。こうした方々が元気でないとお祭りの実現も大変だという話をよく聞く。区民の生活実態という面も見えていく必要がある。

委員

- ・先ほど「住民の移動」という話があったが、全体的に見るために、まさにその視点は重要だと思う。品川のまちは古いので、あえて言えば、「現地人」(古くからの住民)、「新住民」、「昼間人口」と、大体3つに分かれている。文化芸術は、どちらかというと現地人が一番参加しやすい。昼間人口の方は、ほとんどが鑑賞だけである。
- ・新住民(最近のマンションに入った方など)は、町会・自治会の人間から見ると、町会を上手くやっていくポイントは、現地人・新住民・昼間人をどう上手くまとめられるか、にかかっている。どういうターゲットに向けて何をやるかというのは、こうした住民の構成(特性)についても調査に入れることができれば、問題点がクローズアップされてくると思う。

委員

- ・今、総合型地域スポーツクラブの活動を始めている。調査結果の中で、「関心がない」「ほとんどやらない」と答えているような方々に、当クラブを作り上げる上で、どうアプローチすればいいのか、今後の課題である。
- ・調査結果では、民間のスポーツクラブは、公共施設、学校などよりも(利用者が)多かった。現在、学校の体育館は使っているが、昼間は学校を使えない。その点、民間スポーツクラブが有効に使われている。今スポーツをしていない人に対してどうすればよいか考えさせられた。

委員

- ・調査結果に関連して、「学校スポーツ」というポイントも、議論の中で必要ではないか。「育成する」という観点から、保育園、幼稚園、小・中学校、高校など、それぞれの子どもたちのスポーツを、区はどうしていくのか。たしかに、自分が楽しむ健康面もあるが、「下地を作っていく」という活動や行動計画、ビジョンがあってもいい。この調査結果では、「学校スポーツ」についてはなかったが、今後の委員会では、そうした部分も議論する場があってもいい。

委員長

- ・今回、調査回答者が20歳以上であり、学校は「場所としての学校」としか意識されていなかった面がある。区のビジョンとしては、やはり「学校」について、「学校における文化」の部分も含めて、考えていく必要がある。

委員

- ・第1回策定委員会の資料の中で「にぎわい」や「地域の資源」という記述があるが、「地域の資源とは何か」を考えた時、今の議論は「スポーツ、伝統芸術、文化をどう伸ばしていくか」という議論にしか聞こえない。最終的には「文化芸術やスポーツを通したま

ちづくりを行って、それが1つのコンテンツになり、観光にもつながっていく」という考え方でよいか。

委員

- ・ 前回の区長の諮問でも、「にぎわい」を念頭に置いたまちづくり、そして、そのまちづくりを進める上で、文化とスポーツという切り口から検討していく、ということが明示されていた。
- ・ ただし、そのにぎわいが観光とイコールなのかは、まだ議論のあるところだと思われる。観光もにぎわいの一つだが、必ずしも観光に限ってはいない。それも含めてこれから検討していく。今回の議論では、「文化やスポーツを振興することだけ」を目的としてないことは、前回の委員会で確認してある。

委員

- ・ この場には「観光協会」や「商業観光課」の方もおられるが、スポーツ文化、例えば、お祭りも、ある意味で観光にもつながり、それにより地域のにぎわいが出てくる。そういう方面も考えながら議論した方がよいと思う。今までの議論ではミクロの部分に話が行っているような感じがあり、もっと幅広く考えた方がよいのではないか。

委員長

- ・ 文化や芸術・スポーツは、関係のある人たちのための余暇活動にとどまらない、社会の発展のための多目的な生産要素である。このビジョン自体はそういう大きな視点で作っていかうと、区長からも諮問を受けているので、そのような観点からぜひ発言をしていただきたい。
- ・ 「品川をどんなまちにしたいのか」という視点でのビジョン。それが現実にできるかは別にして、「こんな区になったらよいのでは」ということを積極的に発言していただきたい。

委員

- ・ 配布資料(品川区文化芸術・スポーツの現状について)にある「きゅりあん」(=区立総合区民会館)について、コンサートなどが開催され、「身近な文化提供の場として」という言葉がある。活動する人にとって利用しやすく、実際に、かなり利用されている施設だと思うが、その点が資料の中に入っていないのが疑問。もっと利用しやすく、なかなか場所が取れないという「活動の機会・場所」の課題と、観る側から「観に行きやすい題目・演題をもっと研究してもらいたい」という声を伝えたい。
- ・ スポーツ指導委員については、例えば、野球の指導者は野球のことにすごく頑張っているが、野球の世界だけでとどまってしまう方が多く、そうした人達の存在があまり知られていない。
- ・ パラリンピックのような、障害を持った方たちのためにどのようにスポーツを考えていくか、という視点も議論に入れてもらいたい。品川文化芸術・スポーツのまちづくり条例を作る際、障害を持った方の関係をどうするか非常に悩んだ。

- ・「にぎわい」について、文化的なにぎわい、イベント的なものを区のまちづくりに活かすことが大きなビジョンの方向性だと思っている。
- ・調査結果の設問「品川らしい文化とは」について、抜粋意見をみると、古くから住んでいる方の意見が多いようだ。「要望、機会がある」「その他」について、具体的にどんな回答だったのか、後で教えてほしい。

委員

- ・既にあるスポーツや文化の団体の中に全く知らない方が飛び込むのには大きな壁があり、本当はやりたいけど、その壁を嫌がって参加できない、ということもあるのでは。
- ・その面で今、スポーツ分野では「総合型地域スポーツクラブ」があり、“毎日誰でも、どこでも活動できる”方向を目指した流れがあるが、文化芸術分野でも、それと同様に、個人が、自分の状況に応じて楽しめるものを増やすことで、今までは個人の鑑賞だけをしていたが、何かのきっかけで少しやってみたいとなるような環境が出来れば、潜在的な文化芸術活動のニーズが満たされるので。
- ・地域のにぎわいということ言えば、例えば、商店街等で空き店舗を利用し、地域の子どもたちの文化芸術作品を展示したり、文化の香り豊かなモニュメントを創作したりするのもよいかもしれない。
- ・豊島区には学校の跡地施設を活用して文化芸術活動をしている所があるが、そこには様々なグループが集って、子どもたち向けにワークショップ的なこともやっている。そうした活動も「にぎわい」を議論する中で検討してみてもどうか。

委員

- ・「にぎわい」を作るには、まちに人を徘徊させないといけない。人を徘徊させるには、その施設をある程度、駅から離れた場所（10分圏内ぐらい）に作る。そうすることで、まちは形成されていくと思う。
- ・品川の場合、O美術館、きゅりあんなど、色々な施設があるが、駅から近すぎる。それでは、まちに人が徘徊しないので、今回のテーマでは難しい部分がある。五反田で「劇団四季」が公演をやっていたが、あのようなシステムの劇場を作っていくと、まちに人が徘徊してにぎわいもできると思う。

委員

- ・商店街の人達や、お客さんと話をすると、入手手段はやはり「区報」である。文字媒体の利用が多く、区報などにもっと大きく掲載してくれないと気づかない、という意見も多い。
- ・そうした点で考えると、調査結果にある「文化をもっと紹介してほしい」との意見があるのに対し、区報にはたくさんの情報が載っているが、「どれがより重要で、どれがより重要でないか」が分かりづらい。また、文字が小さくて読みづらい、という話もたくさん聞いている。
- ・今、区民が高齢化している状況もあり、ケーブルテレビは結構見られているようだが、

文字媒体を必要としている人がたくさんいる。もっと区報や、ポスター・チラシの充実ができたらいいかと区民としては思う。

委員

- ・ 青少年向けの行事をやっているが、参加してくれる子どもたちが少ない。ほとんどの子どもたちは非常に忙しく、サッカー、野球、その他、いろいろな活動に参加している。私たち町会では、中高年向けのバスハイクを募集すると、1日2日で定員いっぱいになるが、青少年の催しはなかなか人が集まらない。運動会など、口コミでどうにか、町会として恥ずかしくない人数を集めているが、そこへ行くまでに、関係者は大変な苦勞をしている。
- ・ 最近、私の住む地域の町会で「こんなことやっている人たちがいるんだ」「こんなサークルを開催している人がいるんだ」と初めて知った。様々なサークルの人が集まる、13地区の「地域センター」を中心に、“センターまつり”のように、地区別の行事をやるのが非常にいいことになるのではと思う。そうすれば、老若男女、年齢に関係なく、人が集まり、にぎやかにいろんなことができるのでは。最近の人たちの傾向として「参加型」が喜ばれるので、いろんなことに参加してもらって行事を行うのがよいと実感している。
- ・ ケーブルテレビは、お祭りの時にいろんな地区のお祭りの模様などを放送してくれるのがとても良い。地域のお祭りの存在を知るなど、区内の知らなかった部分がちょっとした情報で分かることが多い。行事・イベントの放送時間は短すぎるが、時間を長くしていただきたいと、区民の方も“あの人が出ていた”となって、視聴率が高くなると思う。

山田副区長

- ・ 品川区全体のフィールドで見ると、民間の劇場やスポーツ施設も幅広くある。従来は公共・民間と分けていたが、新しいにぎわいを考える際、「民間とのコラボレーション」をどのような形で実現できるか、一般の区民の方々が参加しやすく、行動しやすいような新しい切り口でできないだろうか、ということがこれからの視点になるのでは。
- ・ 駅から離れた所に施設があると、まちのにぎわいを作れるとの指摘があったが、この度、劇団四季が大井町に常設劇場を作ることが決まった。四季さんも民間団体なので、民間と区がどうかたちで連携が取れるかという切り口も出てくるのは。
- ・ 「古くからの住民」「新しい住民」「企業の昼間住民」など、区民をどうまとめていくかが重要との意見があったが、その通りである。昼間区民は、夜は区立の施設（ホール等）を利用している。企業でも、東海中学校と合同合奏会を開くなど、新しい形の社会貢献活動が出てきている。そういう視点も、今回のビジョンの中にぜひ取り入れていただきたい。

委員長

- ・ 今日、現状のデータと意識調査結果を題材に、皆さんの意見を自由に出していただいた。これまでも何回か議論に出たが、今回、「にぎわい」というキーワードが、私たちに課されている。

- ・「にぎわい」といっても、様々なタイプがある。大まかに整理すると、大きな観光イベントや、劇場や美術館などに、全国や地域から人が集まって来るタイプのにぎわいもある。一方、大勢の人が集まるわけではないが、例えば、毎週通ってくる人があるという、にぎわいもある。企業や学校を誘致する、または、文化施設などでけいこ場を設置するというのが、このタイプである。もうひとつは、特に外から人は来ないが、区民や、区内で働いている人たちが建物にこもらずに外のまちに出てくるという、にぎわいもある。
- ・調査結果の中で、比較的、活動は「個人で」「家の中で」という回答が多かったが、まちに出て地域の人たちといっしょに何かをする。それが、その地域の中でにぎわいを作っていく、他の色々な活動の活性化に発展することはあり得る。
- ・「にぎわい」といっても、組み合わせの中で、あるいは、品川区には多様な性格を持ったエリアがあるので、「このエリアではこういう形のにぎわいを作る」といった議論を今後していく必要がある。その中で、公立、民間の施設、そして、古くからの住民、新しい住民、昼間区民など、色々な方がどう参加するのかを描いていく必要がある。
- ・次回の委員会では、今後実施される「懇話会(グループインタビュー)」や「団体アンケート」の結果などを踏まえて、事務局である程度、情報を整理して、方向性についてのたたき台(資料)を出し、もう少し具体的に議論していく。単に個別の現場が抱えている問題の話ではなくて、まちづくり全体の視点から、方向性を具現化していきたい。

6 次回日程等について

事務局

- ・次回は、7月28日火曜日、午後2時から行うものとする。

7 閉会

以 上